

I 公民館の充実発展に関する事業

【公民館研究集会・大会等の開催】

「全国公民館研究集会」及び「ブロック公民館大会」を 7 地域区分（北海道、東北、関東・甲信越・静、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州）で開催した。公民館に勤務する全国の職員等を中心に、6,951 名が参加し、地域社会の現代的課題への対応などのテーマで事例発表や討議及び大学教授等の研究者の講演等を行い、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

《今年の開催実績／全国公民館研究集会及びブロック公民館大会》

地区	会期	主会場	参加者数
北海道	10/12～13	北海道釧路市	224 人
東北	10/30～31	宮城県仙台市	896 人
関東・甲信越・静	8/24～25	群馬県前橋市	732 人
東海・北陸	10/19～20	石川県金沢市	1,279 人
近畿	11/30～12/1	兵庫県神戸市	803 人
中国・四国	10/19～20	高知県高知市	1,205 人
九州	8/24～25	大分県大分市	1,812 人
		合計	6,951 人

【全国公民館セミナーの開催】

各都道府県を代表する公民館長を中心に 104 名が参加。今年度は以下に記載したプログラムで実施。公民館の機能充実に必要なことを習得し、各地域の公民館の活動にフィードバックすることで、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

テ — マ／公民館がひらく 地域の未来

開催期日／平成 30 年 1 月 31～2 月 2 日

開催場所／国立オリンピック記念青少年総合センター

参加人数／104 名

《プログラム内容》

スペシャル座談会 I 「公民館がひらく 地域の未来」

牧野 篤（東京大学大学院教育学研究科教授）

山崎 亮（株式会社 studio-L 代表、東北芸術工科大学教授、同大学芸術学部コミュニティデザイン学科学科長）

吉田 博彦(NPO 法人教育支援協会代表理事)

スペシャル座談会Ⅱ 「公民館のこれからを語る」

牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科教授)

山崎 亮(株式会社 studio-L 代表、東北芸術工科大学教授、同大学芸術学部コミュニティデザイン学科学科長)

吉田 博彦(NPO 法人教育支援協会代表理事)

八木和広(文部科学省生涯学習政策局社会教育課長)

吉田 誠(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局参事官)

上田尚弘(東京海上日動企業商品業務部担当課長／元・厚生労働省社会・援護局総務課課長補佐)

北村崇史(柏市役所企画部理事／元・総務省地域力創造グループ地域自立応援課課長補佐)

プチ講義 「防災教育を自分ごとに～大災害時のニーズと生活再建の知識の備え」

岡本正(弁護士、法学博士、元内閣府上席政策調査員、元文部科学省原子力損害賠償紛争解決センター総括主任調査官)

特別講義Ⅰ 「公民館を地域づくりの舞台に –新しい社会基盤としての公民館–」

牧野篤(東京大学大学院教育学研究科教授)

ワークショップ 「自分たちの公民館ものがたりをつくる」

栗山宗大(脚本家／ものがたり法人 FireWorks 取締役)

ワークショップ 「公民館ものがたり」

田中典子(福井市社北公民館主事)

河内ひとみ(大竹市立玖波公民館主事)

特別映画上映会 映画「惑う –after the rain–」上映&トーク

特別講義Ⅱ 「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」

橋田裕(文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課障害者学習支援推進室長)

ミニシンポジウム 「若者がつどう・まなぶ・むすぶ公民館」

三瓶千香子(桜の聖母短期大学キャリア教養学科准教授)

前田学浩(高知県・南国市立稲生ふれあい館[稲生公民館]顧問)

安西裕紀(福島県・福島市吉井田学習センター主事)

宮城 潤(沖縄県・那覇市若狭公民館館長)

【相談助言・情報発信・連携協力事業の実施】

①相談助言・情報発信

日々の公民館活動のなかで「社会教育法上の適否」や「トラブル回避の方法」「活動事例」「公民館の評価」などを情報発信するとともに個別の照会に対し、電話やインターネットを活用した助言

を行った。また、各地の公民館で実施する研修会の開催にあたって、講師派遣の相談対応、運営に役立つ情報提供などを適宜行い、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

②国・地方公共団体・社会教育団体・機関等との連携協力

社会教育団体振興協議会の運営を通じて実施される情報交換及び情報発信、より多くの協力者を求めて、国内における社会教育に関する理解を深めるための新規の加入促進を行うとともに、全国の公民館の活動推進に資するために、公民館施設活用の促進について、積極的な働きかけを行った。

【地域活動支援事業の実施】

都道府県公連で実施している研修などに対して支援をするとともに、その活動状況を発信することによって公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

・各都道府県公連 111 事業に対して 8,200,000 円を助成。

【公民館広報推進事業の実施】

公民館の広報活動の事例を収集・評価を行い、優良なコンテンツを表彰することによって、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図る事業として、今年度はインターネットを活用した公民館の活動についてコンクールを行った。

今年度を実施したコンクールの結果は以下のとおり。

（「第 2 回インターネット活用コンクール」の結果一覧）

種類	名称	受賞館
最優秀賞	1 館	・那覇市若狭公民館(沖縄県)
優秀賞	2 館	・相模原市立光が丘公民館(神奈川県) ・高松市木太地区コミュニティ協議会(香川県)
特別賞	1 館	・白川町中央公民館(岐阜県)
奨励賞	6 館	・弘前市中央公民館(青森県) ・高森町公民館(長野県) ・金沢市田上公民館(石川県) ・相模原市立横山公民館(神奈川県) ・相模原市立麻溝公民館(神奈川県) ・十河コミュニティセンター(香川県)

※一部表示上の都合で平易な表記にしております。

【「月刊公民館」の発行】

公民館の運営に参考になる特集テーマで、地域社会の取組や専門家の論考などを紹介した「月刊公民館」を発行し、これを広く供することで公民館機能を向上させることをもって地域社会の健

全な発展を図ってきた。今年度は以下の特集を組み発行した。

(月刊公民館特集テーマ一覧／通巻 719～730 号)

4月号	あなたも公民館デビュー！公民館入門(上)
5月号	あなたも公民館デビュー！公民館入門(下)
6月号	“しくじり”から学ぶ
7月号	子どもと公民館
8月号	公民館を地域づくりの舞台に
9月号	地域資源を生かす
10月号	公民館活動を記録する
11月号	「自分ごと」の防災
12月号	若者を集める
1月号	移動公民館
2月号	講座づくりのヒント
3月号	第2回インターネット活用コンクール

【専門資料の発行】

公民館活動を行ううえで必要になる専門資料を発行し、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。今年度は本連合会で作成した「新訂公民館における災害対策ハンドブック」、「公民館必携 平成 29 年版」、「新訂よくわかる公民館のしごと」を発行した。なお、安定的な供給と業務軽減を図るため出版社である「第一法規株式会社」による頒布体制に移行した。

【優良公民館職員等表彰事業】

他の模範となるような優良な実績を有する公民館職員を表彰すること及び「優良公民館表彰」で文部科学大臣表彰を受賞した公民館に、記念の楯を贈呈すること、『月刊公民館』でその活動を紹介することで公民館関係者の意欲を触発し、力量の向上を促すことによって、公民館機能を向上させることをもって地域社会の健全な発展を図った。

今年度は以下のとおりの表彰を実施した。

《優良公民館表彰及び優良公民館表彰実績》

優良公民館職員表彰	17名を表彰した。
優良公民館表彰	76館(うち1館が最優秀館、4館が優秀館)の受賞館に記念の楯を贈呈し、『月刊公民館』で活動を紹介した。 【最優秀館】 那覇市若狭公民館(沖縄県那覇市) 【優秀館】 鹿部中央公民館(北海道鹿部町) 奥州市真城地区センター(岩手県奥州市) 鯖江市北中山公民館(福井県鯖江市) 綾町公民館(宮崎県綾町)

Ⅱ 公民館総合補償制度に関する事業

【見舞金制度事業の運営】

公民館総合補償制度のなかで運営し、健全な制度運営と適切な支払いに努め、以下の弔慰金及び見舞金の支払いを行った。また、剰余金の一部を公益目的事業の財源に充てた。

《見舞金制度支払実績一覧》

種類		件数	支払金額	
行事傷害	急性疾病死亡弔慰金	11件	1,100,000円	(76件) 5,284,000円
	急性疾病入院見舞金	46件	2,994,000円	
	特定災害見舞金	17件	1,090,000円	
	地震特別見舞金	2件	100,000円	
職員災害	職員死亡弔慰金	7件	700,000円	(131件)
	職員入院見舞金	124件	5,454,000円	6,154,000円
合計		207件	11,438,000円	11,438,000円

【災害補償保険等に係る集金事務に関する事業】

公民館総合補償制度の運営にあたり、保険会社との間で集金事務委託契約を締結し、制度掛金のうち保険料(団体災害補償保険等の保険料)相当部分の集金業務を、請負事業として実施した。当該事業で得られた利益は、公益目的事業の財源に充てた。

Ⅲ その他の事業

【永年勤続職員表彰、功労者表彰及び公連勤続職員表彰の実施】

公民館において長年勤務し、一定の成果をあげた職員を表彰し、立場を同じくする公民館職員への励みとし、同時によき模範となることにより、公民館職員の意欲を触発し、力量の向上を促すことで、公民館機能が向上することをねらって永年勤続職員表彰を行った。

また、都道府県公連における活動の活性化は、本会の目的の達成はもちろん、本会の根幹にかかわるため極めて重要視している。都道府県公連に対して功労があった役職員を表彰することにより、その労をねぎらい、連帯意識の向上に資するために各種表彰を行った。

今年度の表彰実績は以下のとおり。

《永年勤続職員表彰、功労者表彰、公連勤続職員表彰実績》

種類	人数
永年勤続職員表彰	206名
功労者表彰	4名
公連勤続職員表彰	1名